

九州合研 50 周年記念企画:つながいを大切に…!レートーク No.4

コロナ禍の保育 ～今、保育園で～

発信：九州合研常任委員会 2020.11.27



『日々の保育と行事～保護者とともに～』

「どう共同していくか」

保育園での対策は、3月の小学生の自宅待機から始まった。卒園式を前にし、保護者会で行うお別れ会をどうするのかという話し合いが何度もたれ、県内に感染者が出ないことを条件に、卒園式とともに例年通り行った。ただし、来賓は、子どもたちの強い願いを受け、無認可時代から支えてくださっている方と地域の自治会長さんのみにし、議員や行政関係者などはお断りした。

4月1日の入園・進級式は、新入園の保護者のみが参加して行われた。例年簡単に行うので、特に混乱はなかった。私たちは、共同保育から始まった保育園なので、認可になってからも外部の人たちとの繋がりが深く、運営については、保護者とも話し合っている。合意をつくるための保護者会総会ができなかったのが一番大変なこととなった。県外の人参加があると見られる夕涼み会は、保育の中で子どもたちの夏祭りとして行った。保護者会としてどう関わっていくのかということが話し合われ、屋台の景品として、一人一人におもちゃを配ることが決まった。おとながない中で、4、5歳の子どもたちがお店（ゲームやヨーヨー釣りなど）を運営し、小さな子どもたちも自分でお店を選ぶ姿もあり、子どもたち主導の祭りとなったと思う。来年地域に開いた形で夕涼み会を行うことになったにしても、昨年とはまたちがった形になるのではと考えている。



9月に入ってやっと運営委員会（保護者会役員、クラス

役員、職員がメンバー）がもたれ、運動会について話し合った。基本的には、子どもは全員、おとなは年長の保護者のみ参加するという形に決まったが、「初めての運動会の人たちが参加したいのでは？」「下の子が初めてなので見たかった」との声も聞かれた。「参加したかった」という声を受け、やっぱり全園児の親が参加できる方法はないのかということを再度職員で検討。もともと午前中に終了する運動会の中から小学生や保護者が参加するものを除きおとなは観覧のみとしたら、少し時間が短縮された。当日は、おとな2名までの参加、検温と消毒、マスク着用をお願いした。非接触型で38度や39度が計測された子どもたちが、実測計で何度も計測し37.5度以下となり、やっと入れるといったハプニングがあったものの、和やかで楽しい運動会となった。親子競技がなかったせいか、親から離れられなくなった子どもが崩れる姿は全く見られなかった。



次は餅つきをどうするのかということが課題だが、夕涼みと同じ子どもたちのみの参加で、例年通りの内容とすることになっている。その日に行う保護者会主催で子どもたちも参加して行う忘年会は中止とされた。

「かわらないのは日々の保育」

地域に開いている行事は、考えることが多かったが、日々の保育については、お散歩が保育の中心となっていることもあり、あまり影響は受けなかった。同じ理由で、保育参加についても例年通り行っているが、1家族1日で2人までの制限はもうけた。基本的に一緒に住んでいない親族の参加は遠慮してもらった。期間も1週間伸ばし、1ヶ月かけて丁寧に取り組んだ。給食試食について、マスクを外しての会食となるので心配されたが、そもそも子どもたちが密に過ごす家族の参加なので、心配しても同じだということになった。誕生会は制限を設けず、例年通り毎月行っている。子どもたちだけが参加するお泊まり保育や遠足も感染予防をしながらもかわりなく行っている。



身近にコロナが出ていないのかといえばそうではない。周りのおとなたちがPCR検査を受けていることもある。法人が大きいこともあり、最初は感染予防策に厳しい条件があったが、11月現在は、感染が多い首都圏と北海道の人との接触があった場合は、5日の登園や出勤の禁止。県外の人との接触があった場合は、届出と健康観察をお願いしている。

たまに、県外に出たことを後から聞いて、慌てて用紙を渡すこともあるが、淡々と健康観察を行った後の書類が帰ってくる。県境に旅行に行き、たまたま県外に出てしまった保護者から相談の連絡があることもありその思いに頭が下がる。送迎の際のマスク着用や手指消毒も何も言わずとも全ての保護者が協力してくださっている。他業種で言われる消毒等の業務量の増大については、もともと毎日消毒を行っていたのであまり負担を感じないですんでいる。ただ、子どもたちに体験させてあげたい買い物など園外で人の集まる場所に行くことには、マスク着用、公共交通機関を使用しないなど細心の注意をはらっている。



コロナ禍で考えないといけないのは、まずは子どもたちの命を守りつつ、不自由な生活の中で子どもたちの生活体験やそれに伴う文化の継承を豊かにするために欠かせない活動をどう保障していくかということなのかもしれない。そこには、子どもの願い、保護者の願い、保育者の願いがあって欲しいと思っている。



鹿児島県 認可保育園 愛甲明実（園長）



☆ リレートーク、次は大分県の西郡さんです！ ☆